

聖書日課 『からし種』 2022.10.16-10.23

<p>10月 16日 (日) 出エジプト 34章</p>	<p>「モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏して、言った。「主よ、もしご好意を示してくださいますならば、主よ、私たちの中であって進んでください。確かにかたくなな民ですが、わたしたちの罪と過ちを赦し、わたしたちをあなたの嗣業として受け入れてください。」(8-9節)。モーセは40年間民をとりなし続けた。今わたしたちは、み霊にとりなされて、日々を歩む。</p>
<p>17日 (月) 出エジプト 35章</p>	<p>「心動かされ、進んで心からする者は皆、臨在の幕屋の仕事とすべての作業、および祭服などに用いるために、主への献納物を携えて来た」(21節)。これまでさまざまにつぶやき続けてきたイスラエルの民も、主の言葉に動かされて、自発的に献げた。わたしたちも恵みに感謝して、進んで心から献げる者でありたい。</p>
<p>18日 (火) 出エジプト 36章</p>	<p>「モーセは、ベツアルエルとオホリアブ、および主から心に知恵を授けられた、心に知恵のあるすべての者をこの仕事に従事させるために呼び集めた」(2節)。主はその御用のために、それぞれの心に知恵を与えて、最善を行えるように整えてくださる。今、主は何を求めておられるのだろうか？わたしたちは主からいただく知恵を祈り求め行う者となれるだろうか？</p>
<p>19日 (水) 出エジプト 37章</p>	<p>「また、聖なる聖別の油と、香料師の混ぜ合わせ方に従って純粋な香草の香を作った」(29節)。「粉末の一部を、臨在の幕屋の中の掟の箱の前に置く。わたしはそこであなたに会う。これはあなたたちにとって神聖なものである」(30章36節)。主は聖なる香りとともに、掟の箱の前に立ってください。主が喜ばれる香りはどのようなものだったのだろうか。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.10.16-10.23

<p>20日 (木) 出エジプト 38章</p>	<p>「掟の幕屋である幕屋建設の記録は、モーセの命令により、祭司アロンの子イタマルの監督のもとに、レビ人が担当した」(21節)。レビ人たちの働きにより、わたしたちは幕屋の建設とその姿を知ることができる。聖書に書き記された言葉が信仰の土台となり、骨格となり、わたしたちの信仰を支え続けてくれるものとなる。</p>
<p>21日 (金) 出エジプト 39章</p>	<p>「モーセがそのすべての仕事を見たところ、彼らは主が命じられたとおりに、そのとおりに行っていたので、モーセは彼らを祝福した」(43節)。モーセを通して示された主の言葉に忠実に従ってすべてを成した時、建設に携わったイスラエルの人々は祝福をいただいた。世に流されることなく、聖書のみ言葉に忠実に歩むことができるよう、祈り求めたい。</p>
<p>22日 (土) 出エジプト 40章</p>	<p>「旅路にあるときはいつも、昼は主の雲が幕屋の上にあり、夜は雲の中に火が現れて、イスラエルの家のすべての人に見えたからである」(38節)。イスラエルの人々は主の雲に導かれて荒れ野を進んだ。わたしたちは聖書のみ言葉と聖霊に導かれて歩む。導きをしっかりと受け取れるよう、目と耳、そして心により心を主に向けて開き、歩み続けたい。</p>
<p>23日 (日) レビ記 1章</p>	<p>「牛を焼き尽くす献げ物とする場合には、無傷の雄をささげる」(3節)。「焼き尽くす献げ物」の動物は「無傷」であることが求められた。それは自分の家畜の中で「最上のもの」を神に差し出すことを意味する。なんと厳しさ、チャレンジであろうか。痛みを覚えない献金は献げ物とは言えない。痛みを覚えつつ祈りを込めて神に差し出す献げ物をしていきたい。</p>